



# ひまわり



9 2020  
SEP

## もくじ

- 2 情勢 ~コロナ禍での相談~
- 3 難しいけど楽しい農業実習!!  
8番目のグループホームができました!  
ハートフェスタ2020開催中止のお知らせ
- 4・5 亀岡福祉会の夏(各事業所の様子)
- 6 ちょっと聞いてよ!第28回・時・ご寄付

「コロッケおいしい!」(かめおか作業所ごころうさん会)

## 社会福祉法人 亀岡福祉会

○法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蕨田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

## 柳谷香理

KAORI YANAGITANI

地域活動支援センター絆  
相談支援センター巴  
センター長

## 地域生活を揺るがす事態に

春の緊急事態宣言中は、お結び・巴でも緊急時以外は電話で話をお聞きし、郵送にて書類のやりとりをしました。

緊急事態宣言終了後も弱まることのないコロナウイルスの脅威に、怖くて作業所を休んでいる人、長期の休みになり生活リズムが崩れ、昼夜逆転してしまったり人など、精神的・身体的にいろいろな思いをされている人がいます。

観光業界に就労をして、やっと職場になじめたところに、コロナウイルスの影響で一時休職することになり、再開の目途が立たないために、自主退職もともと通っていた就労移行支援事業所に通い始め、再就職を目指していく人もいます。

また、ある人はコロナウイルスの影響で休職を余儀なくされ、イライラを家族にぶつけることがあります。言葉でうまく自分の気持ちが伝えられず、しんどさが増していったため、本人の気持ちや和らぐようと地域活動支援センターの利用をすすめたケースもあります。

本来ならその人らしい生活が送れているのに、コロナ禍で地域生活を揺るがす事態となっています。

## 「いつもと変わらない

## 日常生活」が大事

障害の重い人たちにとっても「いつもと変わらない日常生活」は、とても大切なものです。緊急事態宣言以降は、様々な福祉サービスが一時休止せざるをえなくなり、利用ができなくなっています。

新学期でクラス替えなど環境が変わったことによる不安を抱えたまま、コロナウイルスの影響を受けて、学校はいつから再開なのかわからない、時間短縮もあり普段とは違うスケジュールに見通しが持てない毎が続いています。緊急事態宣言が終了して、学校や放課後等デイサービスが再開しても本来の日常生活になじめず、混乱する毎日です。「変わらない日常生活が本当に大事なんです」と言っておられた保護者があります。家庭や学校の先生が本人の気持ちを理解し、できるだけ安心して

過ごせる工夫を日々されています。変わらない日常を安心して過ごすというベースがあれば、新しいことへ挑戦しようというエネルギーも生まれてきます。

## 「その人らしい生活」を

相談支援は、電話での対応ももちろん大切ですが、直接会って、その人の息づかいや表情、話し方を見て、話を聞いて共感や理解に努めることが基本です。やはり、コロナで取り入れざるをえないZOOM(ウェブ会議ツール)やメールだけでは、その人の思いを知ることには限界があります。

コロナウイルスを言い訳にするのではなく、感染防止をしながら、相談員として周りの人たちとつながり合い、どのような工夫ができるのか、障害のある人たちの「その人らしい生活」を支援していきたいと思えます。



# 難しいけど楽しい農業実習!!

皆さんは、「チャレンジ・アグリ認証制度」をご存じでしょうか? 京都府の農福連携事業のひとつで、就農者の作業知識・技術の見える化や働く意識の醸成を目的とした、京都市キャリア認証制度です。2018年からスタートしたこのチャレンジ・アグリに、昨年度からかめおか作業所のメンバーも取り組んでおり、今年度も4名のメンバーが、ミニトマト栽培の実習を行っています。

参加しているメンバーは前日から「明日やなあ。準備するわ時間教えて!」といったも意欲的です。土づくりから始まった実習は、定植や芽かきを学び、現



在はちょうど半分が終わったところ…。先日はひとりのメンバーの苗から小さな実が見えてみんな喜びました。講座は難しい項目もありますが、全般はわかりやすい講義で時にはメンバー同士で励まし合う場面もあつたり…。と会場は笑いもおこる和やかな雰囲気となっています。この実習を通して、農業への理解だけでなく、これからの新たな自信につながればと思います。

○メンバーからの声

「実習楽しい!がんばる」

「ミニトマト楽しみ」

「知らないことばかりで勉強になります」



## 亀岡福祉会 8番目のホームができました!

7月から亀岡福祉会8番目のグループホーム、「きらきらホーム」で5名の生活がスタートしました。「きらきらホーム」という名前は入居メンバー全員で相談して決めました。

きらきらホームは待望の「ひとりぐらし型」のホームで、従来のホームとは違い夕食以外は自身自身で生活を組み立てていきます。夜間は世話人不在です。朝は基本的に自分で起きて食事をし出勤準備をします。掃除や洗濯も自分で行います。今はそんな生活が始まったばかりで、世話人の手助けが必要な場面もあるのですが、ゆくゆくは自分でできるように、世話人と一緒にやってみることを大切にしています。

夕食時、リビングに集まったメンバーたちはその日あったことをたくさんおしゃべりしながら和気あいあいと食事をしています。男性メンバーが多いので毎日たくさんの食事で、食後の食器洗い当番も自分たちできめて役割分担をしています。障害者権利条約では障害があってもどこで誰とどんなふうに暮らすかを選ぶ権利があると謳われています。「選べるくらし」がきらきらと輝くように毎日を過ごしてほしいと願っています。

## ハートフェスタ2020の開催中止について

ハートフェスタは、2015年度より、亀岡福祉会、信和福祉会、自立支援センターかめおか、みんなではたらくの4団体で共催し、障害のある人もない人も、ともに楽しい1日を過ごし、出合いやつながりを広げる場として開催してきました。

しかし、現状のコロナ禍で毎年1,000名を超える方々にご来場いただくハートフェスタは感染を防ぐ「三密」を防ぐことが困難と言わざるをえません。このような事由から止む無く「中止」という苦渋の判断をさせていただいた次第です。

来年は「ハートフェスタ2021」としてぜひとも開催したいと思っております。